

「セツちゃん」(重松清) 読解設問(読解記述オンライン用) ©ふくしま国語塾

問1

読者はどの場面で「…略…」とさとることになりますか。(講座中に問います)

問2

167「心配ごとのなにもない暮らし」「おだやかで波風の立たない暮らし」
169「幸せ——などと くじゅうぶん満たされている」といった描写は、
ストーリー全体の中でどのような効果を持ちますか。

問3

169「そういうの、危ないっていうから」とありますが、なぜ危ないのですか。

問4

170「そんなの、マジ、サイテーだよ」とありますが、最後まで読んだあとで振り返ると、加奈子のどんな心情が読み取れますか。

問5

170「もともと学校でのできごとはなんでも親に話す子だった」「親としては、ありがたい くささやかな自慢でもあった」とありますが、雄介自身が、自身のこのような思いとは正反対の言葉を加奈子に言っている部分があります。そのセリフを抜き出さない。

問6

171「目に見えない境界線が引かれているような気がしていた」という描写は、ストーリー全体の中でどのような効果を持ちますか。

問7

171「下手に正義感をふりかざすのが危ないこと」とありますが、なぜ危ないのですか。

問8

172「セツちゃんの責任じゃないわけじゃん? くみっともないっつーか、プライドないっつーか、哀れだよね」とあります。ここだけでなく、加奈子がセツちゃんについて語る言葉を読むと、加奈子の性格や考え方が浮かび上がってきます。

ます。それを整理した次の文の空欄を埋めなさい。ただし、①は漢字三字、②・③は漢字二字で答えなさい。

加奈子は、セツちゃんについて語ることで、自分を(①)しようにしている。それは、加奈子の(②)の強さを感じさせる。しかし、いじめの苦痛によってそれは徐々に失われ、(③)が勝るようになる。

問9

173「それを万が一知ったときの彼女の親が抱くはずの悲しさや悔しさく転げまわりたくなってしまおう」とありますが、最後まで読み終えてから振り返ると、「彼女の親」とは誰のことだったのですか。最もふさわしい一人だけを書きなさい。

問10

173「だって、それが現実だもん」「ゲンジツという濁った音が、雄介の耳にざらりとさわった」とありますが、この部分と対照的な描写を探し、必要な範囲で抜き出さない。

問11

173「同情とかって、ほんと残酷なんだ、ってよく言わない?」とありますが、一般的に、なぜ同情は残酷なのですか。

問12

174「嫌いだから、振り付けが変わっても教えなかったの。嫌いだから、笑うの。嫌いだから、シカトするの。しょうがないでしょ、それ」とありますが、この論理は間違っています。なぜ間違っていると言えるのか、説明しなさい。一般的に、「いじめる」と「嫌う」はどう違うのかを考えながら、答えること。

問13

179「目をそらしたかった。自分より、むしろ加奈子のために」とありますが、これはどういうことですか。わかりやすく説明しなさい。

問14

183「ひよっとしたらの可能性が、皮肉な話だ、加奈子がそう口にしたことで、粉々に砕け散ってしまった」とありますが、これはどういうことですか。わかりやすく説明しなさい。

問15

問14をもとに考えると、183「つまらなそうに笑って」とは、どのような意味を持った笑いだったといえますか。

問16

185「中年の——だから同世代の選手が、かんたんなバットをはずした」とありますが、これは何を暗示するための描写なのでしょうか。

問17

186「ペットボトルが、キッチンの上に落ちた」とあります。このときの和美の心の動きを説明した次の文章の空欄を埋めなさい。

加奈子がいじめられているのは間違いないという考えに至ってはいたが、それはあくまで、原先生の言葉などをもとにした（ ）的な推論を通してのものだった。それが、目の前の加奈子の言動によって（ ）的に突きつけられたことに対して、和美は強い衝撃を受けている。

問18

第4場面の始まりの数ページ（189の後ろから4行目まで）について、雄介と和美はどこで話をしていますか。

問19

186「もしいじめに遭っていたとしたら、ふつう立候補なんてしないでしょ？」とありますが、原先生が、自身のこうした考えを改め、逆の解釈をしているセリフがあります。そのページ数と行数の範囲を答えなさい。

問20

188「逆に、筋道が通っているからこそ不自然に感じられないこともない」とありますが、これはどういうことですか。

問21

189「嘘がばれたときの加奈子はどうなってしまふのが怖い」とありますが、なぜ怖いのですか。それをまとめた次の文章の空欄を15字以内で埋めなさい。

嘘がばれるということは、（ ）ということであり、それによって加奈子が自制できなくなるかもしれないから。

問22

189「嘘を守ってやるのが加奈子のためになるのかどうかは、やはり、わからない」とありますが、このときの雄介は、「全てを訊いてしまえばいい」という考えと、「嘘を守ってやるほうがいい」という考えのどちらに近いのですか。

問23

190「初めていじめを認めた」とありますが、原先生がいじめを認めた理由をまとめなさい。

問24

190「信任投票で当選した。しかし、投票用紙に不信任の×印をつけた生徒が三十人近くいた」とありますが、三十人という数にはどのような意味が込められていますか。

問25

190「顔がなかったんだって。加奈子のポスター。字だけなの」とありますが、どのような状況を示していますか。

問26

192「そんなときの加奈子は、なにも見ていない。目はこっちに向いていても、まなざしが来ない。それが怖くてたまらない」とありますが、なぜ怖いのですか。

問27

193「加奈子の声が返り、まなざしは和美がよこした」とありますが、どのような状況を表していますか。最もふさわしいものを選びなさい。

ア 加奈子は何を言われるのかと驚いて雄介に返事をした一方で、和美は落ち着いた気持ちで無言のままに雄介を見た。

イ 加奈子が雄介を見ながら何の気なしに返事をした一方で、和美は雄介の次の言葉を気にしながらも平静をよそおいつ黙って雄介を見た。

ウ 加奈子がいじめて気に留めないようすで雄介を見ずに返事をした一方で、和美は何を言い出すのかとハラハラしながら、言葉を発する余裕もなく黙って雄介を見た。

問28

194「追い詰めるんじゃない、引き戻すだけだ」とありますが、追い詰める

ことと引き戻すことは、どう違うのですか。どこに引き戻すのかを含めて説明しなさい。

問29

195 「だって、あんたってエラソーじゃん、いばってんじゃん」「はっきり言うけど、セツちゃん、サイテー。マジ、死んだほうがいいんじゃない？ じゃあね」とありますが、ここから「いじめ」というものの特徴を読み取れます。それはどういうものですか。

問30

197 「半分はひがみもある」「素直で屈託のない子へのやっかみ」とありますが、どういう意味ですか。

問31

197 「高木さんが謝れば、それでみんなの気がすむかというところでもなくて」という言葉から、原先生の考え方が伝わってきます。どのようなものですか。

問32

198 「加奈子是一所懸命に自分に言い聞かせていたのだろう。自分を納得させようとして、必死に理屈の筋道を立てていたのだろう」とありますが、加奈子はそのような理屈を立てていたのですか。最もふさわしいものを選びなさい。

ア 自分をいじめている子たちは悪い。私は悪くない。

イ 自分をいじめている子たちは悪くない。私も悪くない。

ウ 自分をいじめている子たちは悪い。私も悪い。

エ 自分をいじめている子たちは悪くない。私が悪い。

問33

198 「高木さんは、ひじょうにプライドの高い生徒さんなんだと思います」とありますが、なぜプライドが高いと言えるのですか。

問34

198 「生徒会長に立候補したのも、自分の居場所を失いたくなかったからなんだと思います。目立つポジションに立つと、よけい反発を買うかもしれないけど、それでも、いつもみんなのリーダーをつとめる自分を捨ててしまうと、自分の居場所がどこにもなくなってしまうと思ったんじゃないでしょうか」とありま

すが、原先生の言う「居場所」とは何を指しているのですか。ふさわしくないものを一つだけ選びなさい。

ア 他人から認められている、自分らしさ。

イ 他人から離れたところにある、自分だけの心の安らぎ。

ウ 自分が自分であることを確かめられる、アイデンティティ。

エ 自信を持つことのできる、自分のキャラクター。

問35

199 「ばかだな、と雄介は思う」とありますが、このときの雄介の心情を説明しなさい。

問36

199 「彼女はご家庭の中でも必死に居場所を失うまいとしたんじゃないでしょうか」とありますが、

(1) 「家庭の中でも」とは何に加えて「も」なのですか。

(2) 「家庭」において加奈子が失うまいとしたものはどのようなものだと雄介は考えているのですか。最もふさわしいものを選びなさい。

ア 嘘偽りなく本当のことを正直に話す娘の姿。

イ 親に心配をかけずなんでもしゃべる素直な娘の姿。

ウ 自己の主張を忘れず、ときには親に対しても意見を言えるような娘の姿。

エ ときには親に対しても秘密を持てるような、中学生らしい娘の姿。

問37

原先生は、なぜ「たいへん失礼」とことわっているのですか。

問38

199 「さっきより、もっとかなしい、ばか。俺たちは、かなしい、愚かな親だ」とありますが、雄介は、なぜそう思ったのですか。それを解説した次の文の空欄を埋めなさい。

苦しみながらもそれを乗り越え居場所を失うまいとしていた娘の様子を、

(①) においてのみならず、(②) の中においてさえも、気づいてあげることができていない情けない親の姿を、親として当然わかっているからならぬことをわざわざ質問する和美の言葉を聞いて、実感させられたから。

問39

200 「そして。」だけが1行で表現されているのはなぜですか。

問40

201 「ウチはカナがなんでもしゃべってくれるから安心だなあ、と口にしたことがなかっただろうか。かわいそうなことをした」とありますが、

(1) なぜこれを、雄介は「かわいそうなこと」と考えているのですか。

(2) こう考えたからこそ発せられたセリフを抜き出しなさい。

問41

205 「とにかくセツちゃんは消えた」とありますが、なぜ消えたのですか。

問42

206 「疲れたら休んでいいからな、カナ」に対して、「だってまだ、近所じゃん」と加奈子は答えています。

(1) 「疲れたら休んでいいからな、カナ」とは、どういう意味ですか。

(2) 「だってまだ、近所じゃん」とは、どういう意味ですか。

(3) このとき、加奈子は雄介の真意に気づいているのでしょうか。

問43

「遅くともここで、加奈子は両親の気遣いに気づいたはずだ」と分かる一文を、抜き出しなさい。

問44

208 「レジに持って行きかけて、やめた」とありますが、なぜだと考えられますか。

問45

209 「捨てたいような人形に身代わりになってもらうのって、なんか悔しいもんな」とありますが、これはどういう意味ですか。

問46

210 「セツちゃんってさあ、また転校していったんだよね」とありますが、加奈子はなぜこのように言ったのだと考えられますか。

問47

210 「傷、つけなくてもいいよね? かわいそうだもん、こんなにきれいな

のに」とありますが、加奈子はなぜ傷をつけなかったのですか。

問48

210 「ああ……かまわない」とありますが、「……」の部分の雄介の心情を説明しなさい。

問49

210 「流しても、いじめ、止まんないよ? そんなに現実、甘くないもん」とありますが、ここからどのような事実が推測できますか。

問50

210 「ゲンジツを、やわらかい響きで言えるようになった。それでいい」とありますが、当初の「現実」(173、175)と、どう違うのですか。

問51

次のアとイの違いを、作者の意図も含めて説明しなさい。

ア 舟を、浮かべた。

イ 舟を浮かべた。流れていく。

流れていく。

問52

211 「その手をゆっくりと戻して、顔を覆った」とありますが、ここで加奈子はなぜ涙を流したのだと考えられますか。

問53

この物語の中で、原先生はどういった教師として描かれていますか。

問54

加奈子にとって、セツちゃんとはどういうものなのでしょうか。

問55

この物語全体における、加奈子の対比的な心情変化をまとめなさい。